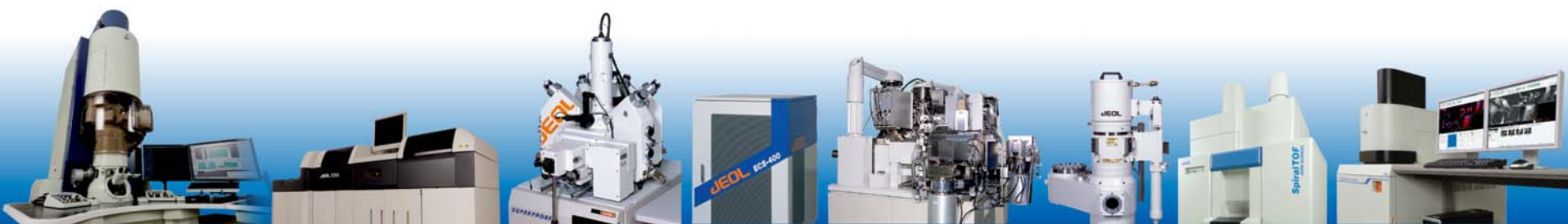


2011年3月期第4四半期決算説明会資料

日本電子株式会社

代表取締役社長 栗原 権右衛門

2011. 5. 27



内 容

1. 2010年度実績 財務ハイライト
 - ① 損益
 - ② セグメント情報
 - ③ 財務状況
 - ④ キャッシュフロー
 - ⑤ 配当

2. 2011年度見込

3. 中期経営計画「CHALLENGE5」の進捗
 - ① 経営構造改革の推進
 - ② 研究開発力の強化
 - ③ ソリューションビジネスの強化
 - ④ 新興国市場の深耕
 - ⑤ サプライチェーンの強化

4. キャパシタ 事業 (ACT社) について



1. 2010年度実績 財務ハイライト

- ① 損益
- ② セグメント情報
- ③ 財務状況
- ④ キャッシュフロー
- ⑤ 配当



① 損益（対前年同期）

Global Solution Provider for Advanced Technology



（億円）	2009FY年間 実績	2010FY年間 実績	増 減
売上高	848	753	▲ 95
売上粗利	252	238	▲ 14
（利益率）	（ 29.7% ）	（ 31.6% ）	（ 1.9% ）
営業利益	5	10	5

--- 営業利益改善（+5）の内訳 ---

【改善】

① 値引改善	+13
② 原価改善	+19
③ 販管費減	+18
④ 研究費減	+1

改善 合計 +51

【悪化】

⑤ 数量減による粗利減	▲ 26
⑥ 円高による為替差	▲ 20

悪化合計 ▲ 46



② セグメント情報

Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL

(億円)	2009FY 年間実績		2010FY 年間実績	
	売上	営業利益	売上	営業利益
【理科学・計測機器】	620	42	534	32
【産業機器】	79	▲ 17	67	▲ 13
【医用機器】	149	13	151	20
(調整額)	-	▲ 33	-	▲ 29
合計	848	5	753	10

減収・増益となった。

産業機器事業は不振だったが、医用機器事業が好調に推移した。



③ 財務状況（資産）

Global Solution Provider for Advanced Technology



（億円）		2009年度末	2010年度末	増減
流動資産	（現預金）	71	76	5
	（受取手形・売掛金）	275	234	▲ 41
	（棚卸資産）(*1)	343	367	24
	（その他）	32	32	0
	計	721	709	▲ 12
固定資産	（有形固定資産）(*2)	153	136	▲ 17
	（その他）	153	149	▲ 4
	計	306	285	▲ 21
繰延資産		2	1	▲ 1
資産合計		1,029	995	▲ 34

(*1) 好調な受注に対応した発動により仕掛在庫が増加

(*2) 設備投資は減価償却の範囲内で実行



③ 財務状況（負債・資本）

Global Solution Provider for Advanced Technology



（億円）		2009年度末	2010年度末	増減
流動負債	（支払手形・買掛金）	173	178	5
	（短期借入金）	218	216	▲ 2
	（社債）(*3)	26	22	▲ 4
	（その他）	123	131	8
	計	540	547	7
固定負債	（長期借入金）(*3)	73	65	▲ 8
	（社債）(*3)	80	65	▲ 15
	（その他）	78	78	0
	計	231	208	▲ 23
負債合計		771	755	▲ 16
純資産		258	240	▲ 18
負債・純資産合計		1,029	995	▲ 34

(*3) 売上債権の回収を進め、借入金の返済に充当



④ キャッシュフロー

Global Solution Provider for Advanced Technology



(億円)	2010年度	
営業キャッシュフロー (*1)	+ 30	棚卸資産が 増加したが 売上債権 減少 仕入債務 増加
投資キャッシュフロー (*2)	+ 14	投資有価証券 売却 有形固定資産 売却
財務キャッシュフロー (*3)	▲ 34	借入金返済 社債償還



⑤ 配当

Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL

2009年度 実績	中間 : 1株当たり 2.5円 期末 : <u>1.5円</u> 通期 : 4.0円
2010年度 実績	中間 : 1株当たり 2.0円 期末 : <u>2.0円</u> 通期 : 4.0円
2011年度 見通	中間 : 【未定】 期末 : <u>【未定】</u> 通期 : 【未定】



2. 2011年度見込



損益

Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL

(億円)	2011FY見通
売上高	860
営業利益	19
経常利益	15

想定為替レート	2011FY
ドル	82 円
ユーロ	112 円

2010年度の為替感応度は、1円/1\$の変動に対し 営業利益で約2億円

(億円)	2011FY年間
設備投資額	27
減価償却費	32
研究開発費	44

前年並みの金額を予定



セグメント情報

Global Solution Provider for Advanced Technology

(億円)	2010FY 年間実績		2011FY 年間見通	
	売上	営業利益	売上	営業利益
【理科学・計測機器】	534	32	574	37
【産業機器】	67	▲ 13	108	▲ 12
【医用機器】	151	20	178	23
(調整額)	-	▲ 29	-	▲ 29
合計	753	10	860	19

- 連結売上高 860億円、営業利益 19億円を狙う
- 利益見込は、為替と震災の影響が不透明なため、中期経営計画の数字を下回るが、コスト削減を更に推し進め、計画の達成へ努める



3. 中期経営計画「CHALLENGE5」の進捗

- ① 経営構造改革の推進
- ② 研究開発力の強化
- ③ ソリューションビジネスの強化
- ④ 新興国市場の深耕
- ⑤ サプライチェーンの強化



① 経営構造改革の推進

Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL

1. 生産コスト削減 : 生産センター方式の更なる充実(YMCC)
2. 固定費削減 : 早期退職募集の実施により146名の削減
3. 組織・人員体制の見直し : 経営資源の集中、重複機能の排除
 - 国内関係会社5社を本社へ統合
 - 基幹システムの導入による組織・業務の効率化推進
 - 成長分野への人員シフト
4. 事業の再構築 : 事業統合、外部提携、事業規模見直し
 - (株)JEOL RESONANCE の設立
5. 新人事制度の検討 : 特別プロジェクトチームの編成



② 研究開発力の強化

Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL

- 透過電子顕微鏡 (EM)
- 表面分析装置 (SA)
- 走査電子顕微鏡 (SM)
- 核磁気共鳴装置 (NM)
- 質量分析装置 (MS)
- 半導体関連装置 (SE)
- 産業機器 (IE)
- 医用機器 (ME)



透過電子顕微鏡(EM)

Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL

マーケット動向	<ul style="list-style-type: none">・10年度は、国内では補正予算案件が激減した中、海外が活況だった。・11年度は、半導体業界で設備投資が立ち上がる見込み。台湾、韓国、北米に期待が持てる。・国家科学技術予算が増加している中国で市場が拡大。
技術・製品	<ul style="list-style-type: none">・ARM200Fが引き続き牽引。・半導体市場へ投入のJEM-2800(半導体TEM)に期待。・大口径電子顕微鏡用X-線検出器を開発。100mm²の検出面積を持ち、半導体分野で高評価。
トピックス	<ul style="list-style-type: none">・東大が当社200kV収差補正器で水素原子の撮影に世界で初めて成功。・反応科学超高圧走査透過電子顕微鏡システム JEM-1000K RS (1000kV TEM) を名古屋大学と共同開発。

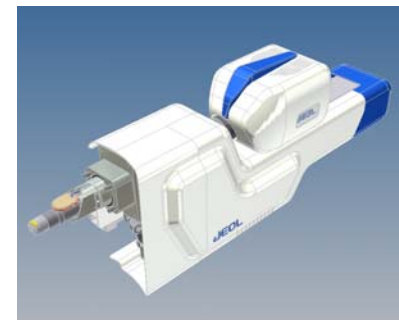


JEM-ARM200F



JEM-2800

JEOL SDD 検出器



表面分析装置 (SA)

Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL

マーケット動向	<ul style="list-style-type: none">・回復基調の国内民間需要に加え、世界的なレアアース関連市場での伸張が期待できる。・リチウムイオン電池関係の材料解析がホットマーケット。
技術・製品	<ul style="list-style-type: none">・世界で唯一のFE-EPMA であるJXA-8530Fは引き続き市場から高い評価を受けている。
トピックス	<ul style="list-style-type: none">・JAXAプロジェクトで8530Fが活躍。「Newton別冊はやぶさが開く宇宙新時代」(2011年4月15日発行)に、微粒子分析に使われる電子顕微鏡として紹介された。



JXA-8530F



走査電子顕微鏡 (SM)

Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL

マーケット動向	<ul style="list-style-type: none">・10年度は、民需が回復の兆しを見せ、計画を上回る売上となった。・11年度は、国内は震災の影響で不透明な一方、海外は各国の旺盛な研究開発投資意欲に牽引されて引き続き拡大基調にある。
技術・製品	<ul style="list-style-type: none">・さらなる開発力の強化を図り、競争力をアップしシェアの拡大を目指す。・タッチパネルSEM JSM-6010も市場投入、好調な受注が続いている。・シングルビームのJIB-4000、マルチのJIB-4501を投入した。国内では2年連続でマーケットシェアトップ。今後は海外展開をさらに強化する。
トピックス	<ul style="list-style-type: none">・前期に続き、Clair Scopeのイノベーションが評価され、産業技術総合研究所から10年度理事長賞を受賞。



JIB-4000



InTouchScope
JSM-6010LA



Clair Scope
JASM-6200



核磁気共鳴装置(NM)

Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL

マーケット動向	<ul style="list-style-type: none">・グローバルに6~12%程度の安定的な成長が見込まれる。・最先端分野の研究開発の中核を担う装置であり、社会的重要性は極めて高い。・有機ELや電池フィルムといった新しい分野にも活用され始めている。
技術・製品	<ul style="list-style-type: none">・実用化レベル超高速(世界最速)固体プローブを武器にグローバルな販促を展開する。・溶液極低温プローブの開発に経営資源を集中投入していく。
トピックス	<ul style="list-style-type: none">・日本のNMR関連技術を結晶化し、全く新しいNMRを開発することを目的に、4月1日付で事業を分割し INCJ((株)産業革新機構)と共同で(株)JEOL RESONANCEを設立した。



開発したNMR検出器

JNM-ECS400



質量分析装置 (MS)

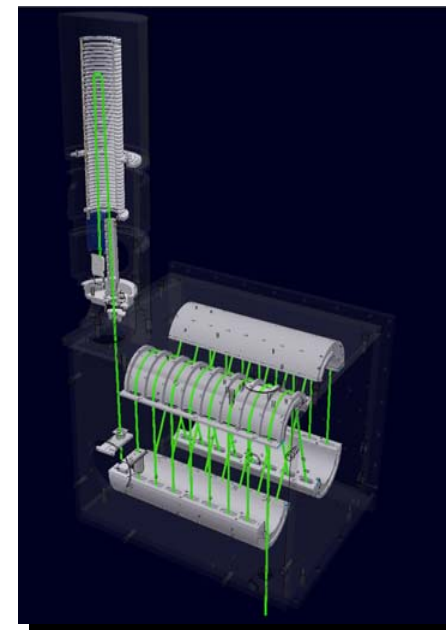
Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL

マーケット動向	<ul style="list-style-type: none">・MSの市場規模は全世界で2,000億円。ポリウムゾーンは創薬、タンパク質同定といったライフサイエンスおよび環境分析。・アジアで活発化しているダイオキシン分析を着実にフォローしていく。
技術・製品	<ul style="list-style-type: none">・10年度に開発した業界唯一の Spiral TOF 型イオン光学系を採用した MALDI-TOFMS S3000を軸に拡販を図る。ポリマー市場をはじめ、天然物/低分子量有機化合物/生化学分析分野への販促を強力に推進する。
トピックス	<ul style="list-style-type: none">・ソリューションビジネスとして、PCB受託分析を展開。



SpiralTOF
JMS-S3000



半導体関連装置 (SE)

Global Solution Provider for Advanced Technology

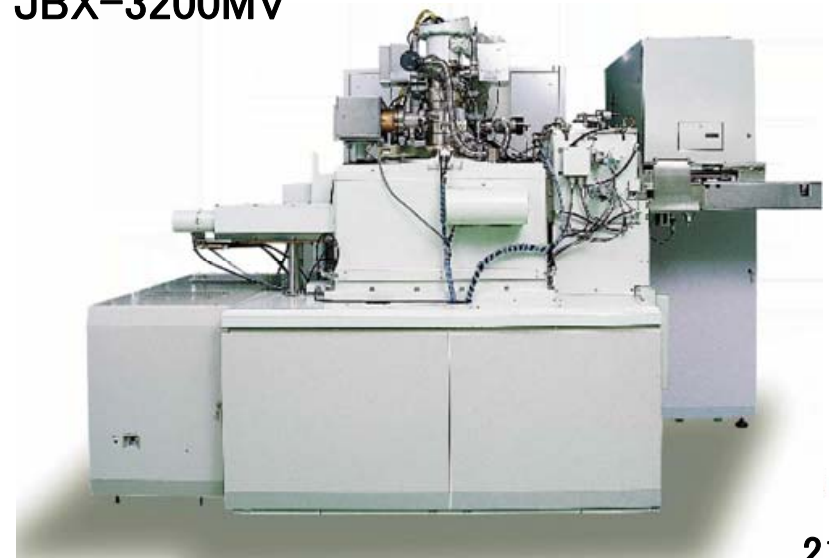
JEOL

マーケット動向	<ul style="list-style-type: none">・デバイスメーカーだけでなくマスクメーカーの投資も回復の兆し。・直描 (SB) 市場は、従来からの主要顧客である内外の大学・研究機関からの商談は引き続き堅調に推移。
技術・製品	<ul style="list-style-type: none">・ハイエンド SB 装置を投入予定。
トピックス	<ul style="list-style-type: none">・EBXの商談が活発化しており、11年度は数台の売上げを見込む。



JBX-6300FS

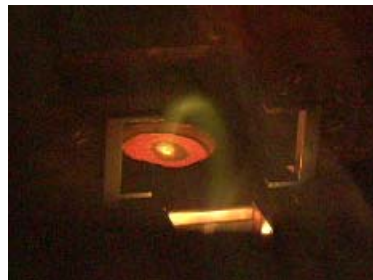
JBX-3200MV



マーケット動向	・タッチパネル用撥油膜、LED電極膜市場が、引き続き活況。
技術・製品	・10kW電子ビーム蒸着用電子銃源を開発。生産性向上に大きく寄与する次世代電源。
トピックス	・10年度に名古屋大学、東洋炭素(株)と共同で、Gd(ガドリニウム)内包フラーレンの熱プラズマ法を発表。量産性に優れた手法として注目されている。



電子銃電源BS-72050ICE



- ・放電時の出力高速復帰
(従来比1/100以下)
- ・高度なビーム制御で歩留まり改善
(ビーム走査、滞在時間、入射角を高度に制御し、蒸発分布向上をサポート)
- ・お客様自身で容易に調整作業可能
(アナログ設定⇒デジタル設定)

高密度プラズマ発生用内蔵形プラズマ銃

BS-80011BPG



プラズマトーチ



医用機器 (ME)

Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL

マーケット動向	<ul style="list-style-type: none">・10年度の生化学分析装置の国内市場は引き続き活況で、中・大病院、検査センターからの引合いが好調、11年度も伸長の見込み。・メタボ検診対応装置への需要も堅調、引き続き需要拡大が見込まれる。
技術・製品	<ul style="list-style-type: none">・ JCA-BM6070 (2400Test/H) は、反応液量の微量化と超高速処理を実現した、シングルマルチ市場最高速の自動分析装置。2009年度グッドデザイン賞も受賞。
トピックス	<ul style="list-style-type: none">・シスメックス(株)と中国・アジア地区における小型機販売契約を締結、他地域においても新規代理店の構築を進めた。・国内受注台数は過去最高の222台を記録し、シェアも5年連続のトップ。・海外受注も、好調なシーメンスOEM にシスメックスが加わり、09年度を上回る405台となった。・11年度は、国内外計で1,000台の受注が視野に入ってきた。



JCA-BM6010
(1200テスト/h)



JCA-BM6070



③ ソリューションビジネスの強化

Global Solution Provider for Advanced Technology

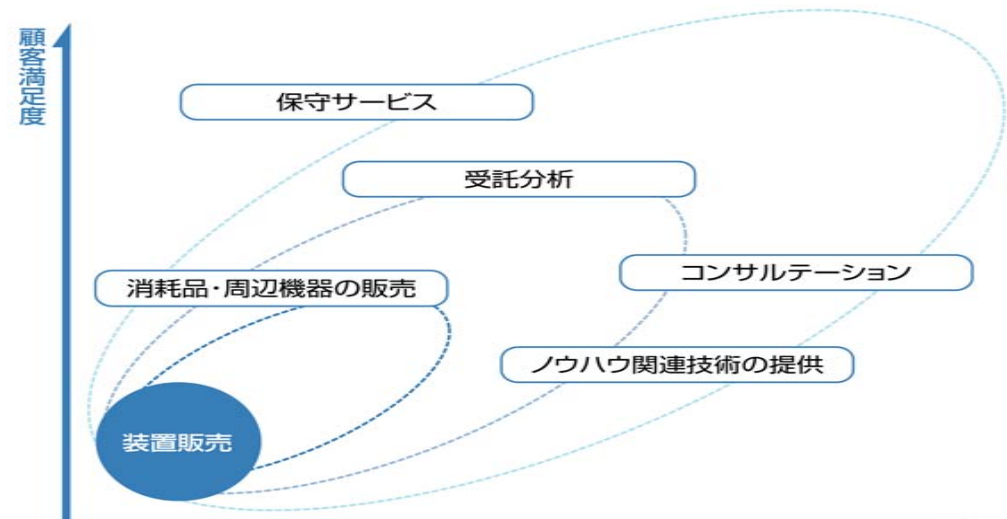


戦略
・保守契約の強化拡大
・部品・消耗品売上の販売拡大
・設置環境事業の拡大
・周辺機器/WSの販売強化
・新規ソリューションビジネスの展開
・受託分析事業強化

ME事業のビジネスモデル

- ・装置の販売台数とともに増えていく試薬、電解質緩衝液、消耗品の売上からの収益が期待できる。
- ・試薬販売においては、国内に先駆けて海外市場(中国、韓国、ヨーロッパ)でHbA1c試薬の販売展開していく。

— 全ての事業にこのビジネスモデルを展開していく —



④ 新興国市場の深耕

Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL

	現状	進行中の施策と手続き
中国	営業・サービスを一体化した現地法人の立上げ完了	<ul style="list-style-type: none">・アプリケーションエンジニア、デモ体制の強化を継続・現地人材の育成を加速・分析機器製品の拡販を図る
ブラジル	代理店展開から現地法人による展開に切替え完了	<ul style="list-style-type: none">・既存ユーザーのサポートを強化する・新規ユーザーの開拓を加速する
ロシア	現地法人設立完了 (2011.1.1)	<ul style="list-style-type: none">・販売力向上により拡販を図る・技術サポート力向上による競争力・利益率の引き上げを図る
インド	現地法人設立完了 (2011.4.1)	<ul style="list-style-type: none">・要員派遣により販促挺入れを図る・現地人材の育成を進める



⑤ サプライチェーンの強化

Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL

- 基幹システムの導入による組織・業務の効率化推進
- 生産体制の見直し
 - ・山形クリエイティブ(YMCC)へのさらなる量産シフト



YMCC生産ライン

- ・国内外に最適なアウトソーシングを展開
- 資材調達費の削減
 - ・グループ各社、開発/設計部門との連携による原価改善活動
- 物流費の削減
 - ・運送チャンネルの選別、コストダウンの推進
 - ・内部スペースの活用による外部倉庫の賃借抑制



4. キャパシタ 事業 (ACT社) について

Global Solution Provider for Advanced Technology

JEOL



リチウムイオンキャパシタ

Global Solution Provider for Advanced Technology

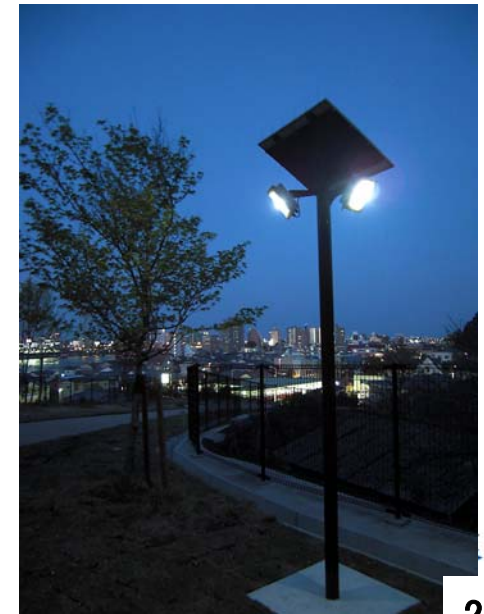
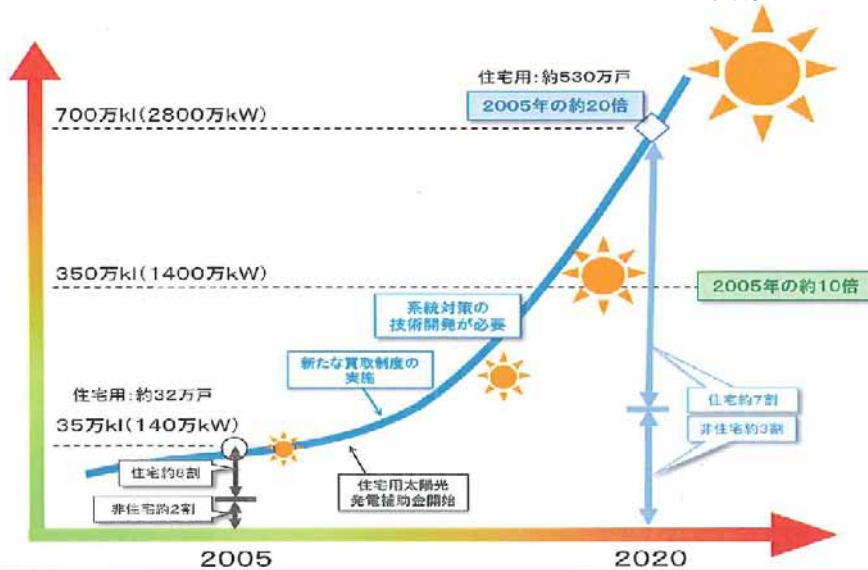


<p>マーケット動向</p>	<p>・耐久性と充放電スピードへの市場認知が高まっている。ソーラー、移動体の蓄電池として市場の拡大が見込まれる。</p>
<p>技術・製品</p>	<p>・量産に向けて生産体制の構築を推進中。</p>
<p>トピックス</p>	<p>・NEDO、早稲田大学と共同でスマートグリッドプロジェクトを推進 (経産省の試算では、太陽光発電設備設置住宅は2020年には530万戸に達する。これに合わせ、系統連携への電圧上昇、周波数変動の対策となる新型パワーコンディショナーを開発し、商品化を目指す。)</p>

太陽光発電の導入シナリオ (試算)

平成21年9月24日

資源エネルギー庁資料



資料取扱上のご注意

本プレゼンテーション資料及び弊社代表者が口頭にて提供する情報には、現時点で把握可能な情報から判断した、仮定及び所信に基づく記述が含まれています

今後、経済情勢をはじめ半導体市況や研究開発投資など、弊社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、異なったものとなることが否定できないことをご承知おき願います

* 弊社は本資料に記載された内容を更新する義務を負っておりません

